

組織透明化試薬

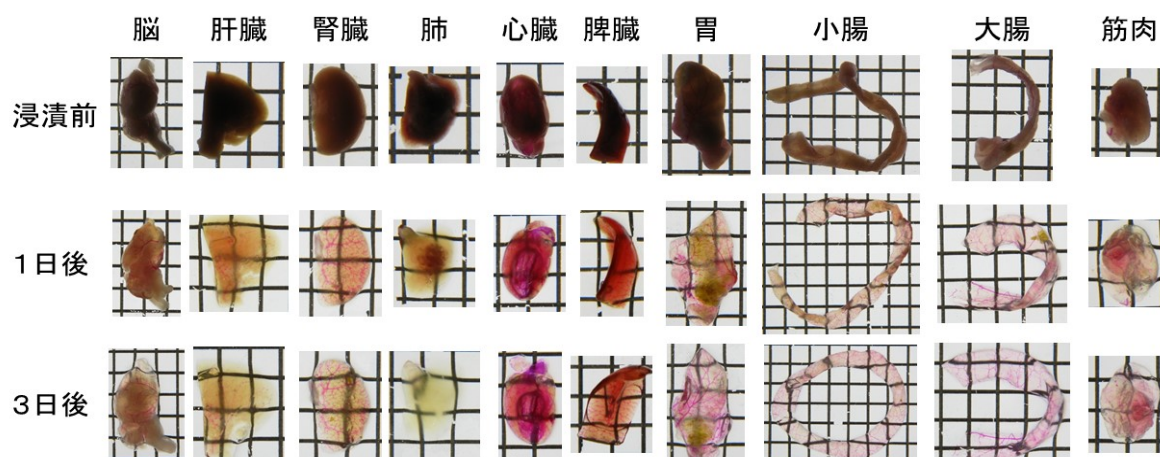
主たる提供特許	出願者	国立大学法人長崎大学
	題名	生体由来材料の透明化試薬
	番号	PCT/JP2018/006564

脂質膜構造を保持し、pH調整可能、迅速かつ高効率な組織透明化試薬です。

技術概要

発明概要

組織透明化には、尿素などの高屈折率物質の浸透を高めるため、界面活性剤が一般に用いられます。しかし、界面活性剤の使用は例え低濃度であったとしても脂質膜構造に大きな影響を与えます。本技術は界面活性剤を使用しない組織透明化試薬です。特徴として、脂質膜構造の保持、pH調節可能、迅速かつ高効率な組織透明化が挙げられます。



効果

- ・pHの調整が可能ですので、使用する蛍光試薬に応じて調整できます。
- ・組織を1種類の試薬に浸漬するだけですので簡単に使用できます。

応用分野

実用化例

- ・脂溶性カルボシアニン色素による血管構造の可視化
- ・リポソームなどのDDS製剤の組織中空間分布評価
- ・遺伝子発現の空間分布評価
- ・膜の可溶化に非対応の酸化ストレスプローブ等の使用

企業へのメッセージ

共同研究先企業、技術移転先企業を探しています。